

四極会 寄附講義「会社研究」令和3年度 第4回目

令和3年5月12日(水) 13時10分

講師 豊和銀行 頭取 権藤 淳 氏

テーマ 「皆さんは、大学で、何を学んだら良いのか？」



今回も前回と同様に、オンライン講義となりました。

次の二つの大きな観点から、学生生活の在り方についてお話をされたことが主な内容です。

○新常態について

1970年代から2000年代はじめにかけて、インターネット、WEBなどといった技術革新を背景に新しいビジネスが創造された。

G(Google)A(Amazon)F(facebook)A(Apple)M(Microsoft)は、まさに、新鮮な感覚を持った若者が創業したものである。

翻って、今はどういう時代だろうか。

コロナがもたらした価値観の変化はすでに起きており、その終息後も元の社会・経済には決して戻らないだろう。

コストの削減優先から、多少のコストを払ってでもいかに事業を継続していくかといった、これまでの経済合理性一辺倒の見直し。さらには、旧来の社会の仕組み

を破壊するデジタル化の急速な進展という、新常態の時代が到来している。

GAFAM が出現した時代と同様に、いま、新しいビジネスチャンスが生まれる時代となっている。

このような時代認識のもと、皆さんは大学生活をどう過ごすか。

皆さんと同じ年齢の若者が GAFAM を創り出した。いま、皆さんもそういう時代に身をおいている。

卒業後の就職のことを考え、準備することはもちろん大切だが、加えて新たな知識を吸収し、経験し、問題意識を深めてほしい。大学に身を置いている今こそそれができるチャンスである。

○銀行業について

これまでの銀行は、顧客(法人・個人)と融資で結びついた関係が基本であった。

これからの豊和銀行は、販路開拓支援といった共同価値の創造により、顧客と一緒の船に乗る「運命共同体」の関係を目指していく。

新ビジネスを創出させようとする企業に対し、融資、販路開拓支援、コンサルティング、出資(ファンド)により支援していくことが、新常態における銀行の新たな役割と考えている。

皆さん自身の問題として、新ビジネスを創り出す立場になるか、それを支援する立場になるか。コロナ感染の中でいろんな変化が起きているからこそ、いろんなことにチャレンジできるものである。

4年間の大学生活は、机上の本だけでなく、いろんなところに行ってみて、経験してみる最大のチャンスである。

卒業時に、後輩たちにこういうことを学んだ、経験したと胸を張って言える存在になってほしい。

最後の質疑応答の内容を一つご紹介します。

転職時の決め手となったことを学生から問われたとき、「おこがましいが、自分が大分に来ることによって、地域金融の新しいモデル(豊和方式)ができないか。さらに、これを大分と同じような地域に応用できないかと考えた。」とのことでした。

学生時代はもちろん、年を重ねても志を持ち続けることはいかに大切かを痛感させられたお言葉でした。

自己紹介

- ・1952年 岐阜県飛騨市神岡町(鉢山の町)生まれ(現在69歳)
 - ・1964年 東京に転校(小6) (因みに、両親は福岡県久留米市出身)
 -
 - ・1976年 三和銀行(現・三菱UFJ銀行) (米国留学・豪州勤務)
(国際金融部、資本市場部、企画部、個人部および支店勤務)
 - ・1997年 ジェーシービー(JCB)(日本最大のクレジットカード会社)

 - * 三和銀行・ジェーシービーで数々の新規業務開発に携わった
=テレフォンバンキング、E-コマース、ICカード、マーケティング等

 - ・2009年 豊和銀行専務就任(以降、大分にて単身赴任・丸12年)
 - ・2012年 豊和銀行頭取就任、現在に至る
-